

一人一人が意欲的に取り組む作文指導
—意見文の指導を通して—

大里村立大里南小学校教諭 川崎佳子

目 次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究仮説	41
III	研究内容	
1	意見文の指導過程の工夫について	42
(1)	意見文の特質	42
(2)	意見文の指導過程と指導内容	42
①	意欲付け	42
②	教科書教材の扱い方	42
③	主題指導	43
④	取材指導	43
⑤	構想指導	43
⑥	記述指導	44
⑦	推敲・清書	44
⑧	評価	44
2	指導の実際	
(1)	単元名	45
(2)	単元設定の理由	45
(3)	児童の実態	45
(4)	単元目標	45
(5)	教材観	45
(6)	指導観	46
(7)	指導計画	46
(8)	評価計画	47
(9)	本時の授業	47
①	本時のねらい	47
②	本時の仮説	47
③	展開	47
④	評価	48
(10)	授業後の児童の声と考察	48
IV	研究の成果と課題	
1	成果	50
2	課題	50
	<主な参考文献>	50

一人一人が意欲的に取り組む作文指導

— 意見文の指導を通して —

大里村立大里南小学校教諭 川 崎 佳 子

I テーマ設定の理由

生涯学習社会、国際化社会の到来により今、子供たちに自己教育力と豊かな表現力を培うことが求められている。

国語科においても目的や意図に応じて適切に表現できる能力、相手の立場や考えを正確に理解する能力の育成が重視されている。その中でも特に作文の表現力が強調され、文章表現に必要な能力を培い、書く活動になるべく多く設定するよう求められている。また、指導に当たって重視しなければならないことは、児童が喜んで書き、しかも主体的に作文に取り組むことができるような手立て、学習過程の工夫が必要である。

しかし、目まぐるしく変移していく現代社会においては、次々と情報が児童に降り注ぎ「静かにじっくり考える」ことが難しい社会情勢となっている。このような社会においては、氾濫する情報の中から筋道を立てて物事を考える力、自分にとって必要な情報を収集選択し、それを活用する能力を育成することが必要になってくる。それとともに自分が感じたり考えたりしていることを他の人に伝達する適切な表現力も必要になってくる。そこで自分の考えをしっかりと持ち、自分の思いや考えを文章表現することは、思考力・想像力さらには人間としての豊かさを培う上からも大切なことである。

これまでの文章表現の指導を振り返ってみると、きめ細かい指導が十分になされなかったことを反省する。例えば、なぜ作文を書くのか、誰に読ませるために書くのかなど目的意識を持たせないまま書かせたり、材料集めの期間を与えずその場での取材をさせたりと反省することが多い。その結果、作文活動においては書くことが嫌いな児童が多く、その理由として、「何を書けばよいか分からない」「どう書けばよいか分からない」「書くのがめんどろ」をあげている。また、書き出すまでに時間がかかる児童、書き進めることは出来るが主題のはっきりしない文章を書く児童等、全体的にみても書く学習に対して意欲的に取り組んでいるとはいえなかった。

そこで、自ら体験したこと、実感したことをもとに読み手に訴えたい、改善してもらうために是非これだけは伝えたいという意見文につなげていけば、意欲的に取り組めるのではないかと考える。

5年生の表現力においては、主題や要旨が明確に表れるようにするため、構成を考えて文章を書く能力の育成が中核目標である。その目標の実現に向けて、児童一人一人の実態や興味関心を把握し、教材の開発に努め、段階を踏まえた指導を工夫していく。それと同時に児童一人一人の自己評価、相互評価を通して自分の良さや友達の良さを発見したり、目的意識をもって書き進め、構想・記述の工夫など表現力の成長がわかるような場を設定する。こうすることにより児童一人一人がさらに意欲をもって表現活動ができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

- ① 児童の興味関心のある教材開発に努め、取材活動・文章構成・記述など明確な課題意識を持って活動できる場を設定することによって、一人一人の児童が意識的、主体的に文章を書くことができるであろう。
- ② 意見の根拠となる材料の集め方の指導の工夫をすることや段階を踏まえた指導の工夫をすることによって、取材能力、構成能力が高められ意見文の書き方がわかるであろう。

Ⅲ 研究内容

1 意見文の指導過程の工夫について

(1) 意見文の特質

意見文は、見たり聞いたりした事実や経験したことなど、生活体験をもとに自分の考えを「なるほど」と相手に納得してもらうために書く文章であり、よりよい生活にもっていくための「訴える」文章である。従って、単なる羅列ではなく説得力がなければならない。

意見文の特質は次のように捉えることができる。

- ① 何についてだれが意見を述べているかよくわかる文章（目的相手意識）
- ② 自分の主張していることがはっきりしている文章（主張の明確さ）
- ③ 表現のよりどころがはっきりしている文章
- ④ 構成に工夫が見られる文章（序論・本論・結論）

指導のポイントとして、長谷川勝彦氏は『表現指導法の開発』の中で次のように述べている。

① 話題・題材の選定の指導

- ・よりよい「意見」になるための鍵は、話題・題材の選定にかかっていると言っても言い過ぎではない。
- ・意見を述べることの最初の段階の指導としては、個々別々の話題・題材ではなく、みんなから出し合ったもののうち、一つを共通課題として作らせることが大切である。

② 材料選定の指導

- ・共通題材で行うときは、友人間の作った内容の多様性から指導していくことが大切である。

③ 生活的適用

- ・訴えることができてこそ意見文は生きたものとなる。文集・掲示・回覧などの方法により、反響を得ることができるまで考えることが望ましい。

このような特質から意見文に必要とされる「主張の明確さ」や読み手に納得してもらうためには、意見文を書くことの必要性をはっきりと捉え、より説得力のある事実や事例を根拠にして、考えを確かに持ち、論理的な文章の書き方を具体的に指導すべきだと考える。

そこで、次のような手順を踏んで実践した。

(2) 意見文の指導過程と指導内容

過程	指 導 内 容	指 導 の 実 際
① 導入意欲づけ	・意見文としての題材のみつけ方。 ・なぜ、意見を述べる必要があるのか。 ・今までどんな経験をしたことがあるか。	特活での体験学習を通して話し合う。 ・困ったこと。 ・不便なこと。 ・なにが問題点か。 ・どうしたらいいのか。
② 意見文の書き方	・教科書教材を通して主題や事実、意見の書き方について理解する。 ・学習を活発にするための資料、指針として教科書教材を生かす。（取材指導・構想指導・記述指導・推敲指導に生かす） ・教材文は児童の作文の教材化も取り入れる。 ・どんな書き方をすれば相手に納得してもらえるかを常に念頭において書き進める。	・教科書教材は読解教材にならないよう、取材の仕方、事実と感想・意見、の区別を指導する際に扱う。 ・教科書教材「自然を大切に」を参考にし「住みよい社会に」を扱う。

過程	指 導 内 容	指 導 の 実 際												
③ 主題文を書くよう	5年の目標として重要である。「何を書くか」「書きたいことは何か」と言うことをおさえる。 <pre>graph TD Theme[主題] --- Fact1[事実] Theme --- Fact2[事実] Theme --- Fact3[事実] Theme --- Fact4[事実] Fact1 --- Opinion1[意見] Fact2 --- Opinion1 Fact3 --- Opinion2[意見] Fact4 --- Opinion2 Opinion1 --- Theme Opinion2 --- Theme</pre> - 意見文の特徴を図によって理解させる。	取材学習後、訴えたいこと、言いたいことは何かを考えさせ主題指導をする。児童からは「でこぼこ道で歩きにくかったので、道路をきれいにしてほしい」「歩道は狭くて車椅子が押しづらかったので歩道を広くしてほしい」「アイマスク体験をしたとき信号が見えないので信号機に音楽を流してほしい」など、ほとんどの児童が訴えたいことを持つことができた。これは取材学習後ブレンストーミングを取り入を友達の考えを聞いたり自分の考えを発表したことも一因と考える。 意見文の文型パターン わたしは……………について ……………である。 (だから) ……………と考える。 ……………をしたい。 ……………をしてほしい。												
④ 取材指導	- 書く目的に従って事柄を選ぶ。 - 取材活動は幅広く取材能力、選材能力をつけることが大切である。 - 取材期間を与える。 - 事実意見の取材を幅広くさせるための工夫。 (取材ノートの活用、日記指導、短作文指導)	- 取材学習は前単元の「作文ノート」で学習しているので意欲的にできた。 - 特活の体験学習も取材学習の一つとして取り上げ、さらに取材活動の場を設ける。 取材（事実を集める目） 自分で経験したこと 人から聞いたこと 実際に見たこと 新聞やテレビなどから 図書館で調べたこと												
⑤ 構成指導	- 取材を収集出来てもそれを選材し、文章構成をしっかりと立てないと効果的な意見文を書き表すことが難しい。 - 意見文に必要な「主張の明確さ」は、自分の意見がどんな具体的な事実、事例と結びついているかを指導することが必要である。 - 意見文の一般的な文章の型としては次のようなものがある。 <table border="1" style="width: 100%;"><tr><td style="width: 15%;">尾活型</td><td> - 事実－意見 - 事実－その原因－意見－改善策（意見） - 問題・話題－事実－原因 推量－意見－改善策（意見） </td></tr><tr><td>双活型</td><td> - 意見－その根拠となる事実－改善策（意見） ① ② ③ </td></tr><tr><td>頭活型</td><td> - 意見－事実 </td></tr></table> - 初期入門は型から入り、書き慣れたところで型から出て自分の論理性で書けるように持っていく。	尾活型	- 事実－意見 - 事実－その原因－意見－改善策（意見） - 問題・話題－事実－原因 推量－意見－改善策（意見）	双活型	意見－その根拠となる事実－改善策（意見） ① ② ③	頭活型	意見－事実	- 初めての意見文指導になるので書き方を分からせるため組み立てのパターンを指導する。 <table border="1" style="width: 100%;"><tr><td style="width: 33%;">序 論 (はじめ)</td><td style="width: 33%;">序 論 (なか)</td><td style="width: 33%;">結 論 (おわり)</td></tr><tr><td>問 題 話 題</td><td>事 実 事 例</td><td>意 見 訴えたいこと</td></tr></table> - 取材カード（事実、意見）は多く集めたが児童には選材が難しそうである。構成指導の工夫がさらに必要である。	序 論 (はじめ)	序 論 (なか)	結 論 (おわり)	問 題 話 題	事 実 事 例	意 見 訴えたいこと
尾活型	- 事実－意見 - 事実－その原因－意見－改善策（意見） - 問題・話題－事実－原因 推量－意見－改善策（意見）													
双活型	意見－その根拠となる事実－改善策（意見） ① ② ③													
頭活型	意見－事実													
序 論 (はじめ)	序 論 (なか)	結 論 (おわり)												
問 題 話 題	事 実 事 例	意 見 訴えたいこと												

過程	指 導 内 容	指 導 の 実 際																		
⑥ 記述指導	・意見をより効果的に読み手に納得させるためには、指示語、接続語、文末表現などの工夫が必要である。 ・教材文の中で具体的に指導すると作文活動に生かしやすい。 <table><tr><th>文 型</th><th>指示語、接続語、文末表現</th></tr><tr><td>事実→事実</td><td>また、さらに、そして、 そのうえ、それから</td></tr><tr><td>事実→意見</td><td>このように、だから、そこで、しかし、それでは、</td></tr><tr><td>意見→事実</td><td>それは、たとえば</td></tr><tr><td>感想</td><td>～と感じた、～と思う、</td></tr><tr><td>意見</td><td>～だと考える、～したい</td></tr><tr><td>断定的な言い方</td><td>～だ、～である、</td></tr><tr><td>推量的な言い方</td><td>もし～だったら、～だろう ～でなかったら</td></tr><tr><td>伝聞的な言い方</td><td>～だとことだ、～だそうだ</td></tr></table>	文 型	指示語、接続語、文末表現	事実→事実	また、さらに、そして、 そのうえ、それから	事実→意見	このように、だから、そこで、しかし、それでは、	意見→事実	それは、たとえば	感想	～と感じた、～と思う、	意見	～だと考える、～したい	断定的な言い方	～だ、～である、	推量的な言い方	もし～だったら、～だろう ～でなかったら	伝聞的な言い方	～だとことだ、～だそうだ	・指示語や文末表現に気を付けながら効果的な意見文になるように書かせる。 ・事実と感想・意見を区別して文章表現をさせる。 ・書き出しの工夫を考えさせる。（例） ＜書き出しの工夫・児童の作品例＞ 会話文 「この車のブレーキをかける大きな音がひびいた。」 身の回りのできごと 「ググカー」の音のとき、右手のよい人が、だやを使ってしんぱんをしいた。 疑問に思ったこと 私は、小さいころ母の不安げな顔を見て、どうしてあんなふうでなくのぞいてくれるの？」と疑問に思ったこと。
文 型	指示語、接続語、文末表現																			
事実→事実	また、さらに、そして、 そのうえ、それから																			
事実→意見	このように、だから、そこで、しかし、それでは、																			
意見→事実	それは、たとえば																			
感想	～と感じた、～と思う、																			
意見	～だと考える、～したい																			
断定的な言い方	～だ、～である、																			
推量的な言い方	もし～だったら、～だろう ～でなかったら																			
伝聞的な言い方	～だとことだ、～だそうだ																			
⑦ 推敲・清書指導	・自分の考えが確かに表現されているかどうか読み返す。 ・段落構成叙述の工夫を見直す。 ・修正したものを読み、表記に注意して清書する。	・グループ学習でお互いの意見文の推敲をさせる。 ・段落のつながりや筋道がはっきりしているかを見直しさせる。 ・言葉、句読点、表記に注意して清書させる。																		
⑧ 評価指導	・段階を踏まえてこまめに行う。 ・意見文の評価としては (ア) 形成的評価。（自己評価） (イ) 相互評価。 ・発表し、よさを認め合う。	・学習過程において自己評価させる。 児童自身に自分の書いた作文を評価させることは大切である。それによって自分の作文のよい点、劣る点を自覚し次の作文活動に生かせることの意義は大きい。 ・相互評価をさせる。 グループで友達の作文を読み全員で評価することによって、友達のよさを認め、また友達から指摘されることによって文章表現の仕方を学ぶことができる。																		

2 指導の実際

(1) 単元名 わたしはこう考える 「住みよい社会に」

(2) 単元設定の理由

5 学年の表現指導事項の「主題や要旨が明確に表れるように構成を考えて文章を書くこと。」が文章表現事項の中核目標として述べられている。それを受けて本単元は5年生になって初めての意見文を書かせる単元である。

意見文を書かせる場合に問題になるのは、児童の感じたことや思ったことそのままでは文章にならないということである。文章にするためには意見だけでなくその表現を生み出した背景、出来事、経験などを書くことによって、相手を説得できる意見文となる。

ここでは児童なりの意見、訴えたいことをそれぞれ2～5文程度の短作文に書き表し、相手に「なるほど」と納得してもらえようような意見と、その根拠のはっきりした文章へと書き広げさせたり考えを深めていく指導へと進めていきたい。

そこで今回は児童が特活の学習の一環として車椅子・アイマスク体験学習をしていることと関連させて、意見文を書かせた。体験したことを切実な問題として捉え、不自由な人の立場が分かり、住みよい社会にするため自分なりの願いや思いを持つことができ、意見文の書き方がわかれば、意欲的、主体的な学習ができると考える。初めての意見文なので、具体的な事実にもとづいて意見が述べられている教材文と対比させながら学習することにより、自分の意見や取材学習がより確かなものになると考え、本単元を設定した。

(3) 国語科における児童の実態

4 月の中旬頃、口頭で簡単な調査を行ってみた。好きな教科とその理由について挙手してもらった。国語を好きと答えた児童は35名中4人で、しかもその理由は読むのが好きで、書くことは苦手という結果であった。嫌いな理由として漢字や作文が苦手だからとしている。

4 月下旬にいくつかの観点を与えて自己紹介の文を書いてもらった。原稿用紙1枚も書けない児童が24人、1枚程度の児童が11人である。中には、2、3行で終わっている児童が5人もいた。このことから文章を広げて書くことが身についていないと考えられる。

そこで、学級で日記を書かせることで文章を書く習慣を身につけさせることにした。最初は自由に次は課題を与えて書かせた。自由に書かせていると、かなりの児童が自分の一日の生活を簡単に述べる程度であったが、課題を与えて書かせると、ニュースのこと事件のことなど、感想や意見も加えながら書けるようになってきた。

(4) 単元目標

- ・生活体験の中から意見を述べるのにふさわしい題材を選び、それについていろいろな角度から見つめ直して取材したことを、整理することができる。
- ・書く材料のもとに中心をおさえ、明確な意見の文章を書くことができる。
- ・文章や語の構成、文と文とのつながり方、言葉の選び方を工夫することができる。

(5) 教材観

4 月に学習した「作文ノート」の取材活動をふまえて、自分の最も主張したい題材を取り上げ、意見文を完成させる単元である。本単元では、弱者の立場に立って取材したことを整理し、自分のしたことと意見とを区別して書くということが学習の中心に据えられている。

今回は、初めての意見文ということで本学級児童が同一体験したことを題材に取り上げ、事象と意見を区別させて書かせることにした。このようにすることで、どの児童にも意見文の書き方が理解され定着すると考えたからである。そうすることによって、その後の指導単元「構成を工夫して」の学習ではさらに意見文に広がりを持たせることができると思う。

(6) 指導観

- ① 意見文を新聞に投稿したり、出来上がった意見文をアイマスク、車椅子体験でお世話になった方々にお礼状と一緒にして送ることを知らせ、意欲を持って取り組めるようにしたい。

- ② 4年生までに学習した、説明、描写、表現など自分の経験を踏まえて書くことができるようにする。
- ③ 書きたい事にそって、取材、選材、構成、記述、推敲、清書の過程が分かり、今後の意見文が段階を追って書き進められるようにする。
- ④ 事実、体験等に対し、自分の考えが持てるようにする。

7 指導計画（9時間）

次	時	ね ら い	学 習 活 動	教師の支援（評価・個への対応）
一 次	1	体験学習の後、自分の意見を持ちそれを文章にまとめることができる。	1. 本時のめあてを確認する。 2. 体験学習後の話し合いをする（ブレンストーミング） 3. 何をどのようにしたいか自分の訴えたい事を書く。	・本時の学習は自分の考えをもつことがねらいであることを知らせておく。 ・全体で大まかな意見を出し合うことによって苦手な子の壁を取り除かせる。 ・自分の考えを持ち、文章にまとめることができたか。（評価）
	2	生活文と意見文との違いを理解し、単元のねらいに沿って意見文を記述することができる。	1. 本時のめあてを確認する。 ・自分の作文と教材文を比べ主題の確かさや考え方の筋道の分かりやすさなどを見直し、作文過程を振り返る。 2. 教材文の導入を読んで、学習のねらいについて話し合い教材文を読む。 ①作文の内容 ②「自然を大切に」から広瀬さんの作文をもとに意見文の書き方を話し合う。 ③ワークシートにまとめる。	・事前に目を通しチェックしておく ・作文を配布 ・取材の方法を知らせておく。（図書館、新聞、家の人など） ・今まで書いてきた作文と広瀬さんが書こうとする作文の違いに気付かせる。また、題名が書き手の考えが強く表されていることにも着目させる。 ・意見文の書き方がわかったか。（評価）
二 次	3	題材について主題文を書き、自分の考えを明確にもつことができる。	1. 本時のめあてを確認する。 2. 主題文の確かさについて見直し、自分の考えを主題文に書く。 ①自分の考えや主張が分かる題名を考える。 ②題名をもとに主題文を書く。 ③書いた主題文を見直す。 ・何について、どのようににあたる場所にサイドラインを付ける。 ・グループで発表し合い評価する。	・題名の役割に加え、説明文や物語文の題名について考えさせる。 ・「何について」「どのように」が分かるように書く。 ・友達の良いところを認め合い、わからないところを聞いたり教え合って進めさせる。 ・教材文の主題内容を示して具体的に指導する。 評価表で評価
	4	いろいろな角度から取材することができる。	自分の考えを具体的に伝えるための事実や体験を述べることの必要性を理解し取材する。	・書こうとする事実や体験について「したこと、見たこと」「感じたこと、思ったこと」を書かせる。
	5 （本時）	主題文をもとにして考えをまとめるために必要な材料を集	1. 本時のめあてを確認する。 2. 自分の考えを支えるための事例や意見をどのように組み立	・きっかけとなった事実 ・考えの根拠となる事例① ・考えの根拠となる事例②

二 次	5 (本時)	め、取材したことや考えをもとに構想を立てることができる。	てたらいいのかについて考える。 3. 事実カードと意見カードを記入させ文の組み立てを考えさせる。	• 考えの根拠となる事例③ • 調べた事実と自分の意見 • 解決方法、自分の考え評価表で評価
	6	自分の考えを明確に伝えるために、構想に従い叙述を工夫しながら記述することができる。	1. 本時のめあてを確認する。 2. 構想に従い叙述の工夫をしながら記述する。 3. 自分の考えが生まれるきっかけとなった事実や体験を書き出しの段階で組み立てる。 4. 構想に従って自分の考えを支える事実や意見などを段落構成する。	• 読み手を作文の中にひき込ませるような叙述の工夫を考えさせる。 • 事実や体験と自分の感想や意見とを区別させ、書き表し方の違いに気づかせる。 • 表現の効果を知らせる。 • 叙述の工夫をさせる。
三 次	7	主題文をもとに構成や叙述の工夫をし、作文を消書することができる。	1. 本時の目あてを確認する。 2. 自分の考えが確かに表現されているかどうか読み返す。 3. 段落構成叙述の工夫を見直す 4. 修正したものを読み表記に注意して消書する。	• 書き出しから結びまでの段落のつながりや筋道がはっきりしているかを見直しさせる。 • 言葉、句読点、表記に注意させて消書させる。
	8・9	発表会を開き、友達の作文と比べながら聞くことで、考えや表記をより確かなものにすることができる。	1. 本時の目あてを確認する。 2. 発表会を開き、友達の作文を聞く。 3. 評価カードを記入する。	• グループで相互評価し、修正を加えた後掲示したり、お礼状と一緒に送る。

8 指導の流れに沿った評価計画

- (1) 主題文をまとめることができたか。
- (2) 主題文をもとに、考えをまとめるための材料をいろいろな角度から取材できたか。
- (3) 自分の考えが明確になるための材料を選び、構想をたてることができたか。
- (4) 構想にそって、書き方を工夫して書くことができたか。
- (5) 構成や書きかたを見直し、消書することができたか。
- (6) 友達と自分の作文を比べながら聞き、自分の考えや表現を見直すことができたか。

9 本時の授業（5／9）

- (1) 本時のねらい
 - 主題文や取材カードをもとに選材することができる。
 - 構想を立てることができる。
- (2) <授業の仮説>

効果的な意見文の組み立て方の指導の工夫をすれば、意見文の構想の立て方がわかるだろう。

(3) 展 開

	学 習 活 動	教師の支援（評価・個への対応）
導 入	1. 前時の学習を想起して話し合う。	主題文や取材ができているか確認させる。
	2. 本時の目あて確認。	
	3. 教材文のメモを参考にしながら、主題文をもとに自分の考えを支えるために必要な材	• 自分の考えの裏付け根拠となる事実や具体例はどれを選ぶか、また足りない場合はどういうも

展 開	料を選ぶ。 (1) 材料を選ぶための視点を話し合う。 (2) 教材文4構想を確認する。 (3) 集めた材料を観点に従って選び、取材が十分かどうか見直す。 4. 自分の選材カードを並べてみる。 (1) 自分の考えを読み手に主張するという立場で意見文の取材カードを並べる。 (2) 並べたカードをグループで意見交換する 5. 選んだカードを整理して構想を立てる。 (1) 教材文を参考にして、考えるきっかけとなった事実の提示から解決への順序になるように材料を並べる。 (2) 構成メモを見て話し合う。	のを再取材すべきか気づかせる。 ・自分の考えと反対の立場からとらえた事実や具体例はあるか。 ・自分の考えを助け、主張を強めることのできる引用や事例はないか。 ・意見交換させることによって考えを深めさせる(相互評価) ・相互評価によって一人一人の良さを認めてあげられるようにする。(グループ) ・全体で発表を聞き友だちの良い点に気づかせる
	ま と め 6. 本時のまとめをする。 自己評価をする。 次時の活動を知る。	自己評価

④ 評 価

明確な意見文を書くための選材や構成ができたか。

(10) 授業後の児童の声と考察

児童の声

①授業をやって難しかったことや、よかったことは何ですか。

<よかったこと>

- ・体験した事をもとに題材、取材ができてよかった。
- ・やっていくうちに主題文の書き方、取材の仕方、構成の立て方などが分かった。
- ・取材活動の時間があつたので、意見文が書きやすくなった。
- ・訴える文の書き方がわかってよかった。

<難しかったこと>

- ・取材メモが難しかった。
- ・構成がむずかしかった。
- ・意見文を書くのが難しかった。

② 作文を書いているときの自分は意欲的、積極的に考えたり書いたりできましたか。



(ア) できた (60%) (イ) だいたいできた (23%) (ウ) できなかった (17%)

③ 自分の訴えたい文を書く方法が分かりましたか。



(ア) わかった (68%) (イ) だいたいわかった (17%) (ウ) わからない (15%)

- ④ これからも、いろいろなこと、うったえたりしていく作文に役立てられますか。



(ア) 役立てられる (86%) (イ) わからない (14%)

- ⑤ この単で一番楽しくできたことは何ですか。



(ア) 体験学習 (30%) (イ) 取材集め (38%) (ウ) 文章を書く (29%) (エ) グループ学習 (3%)

- ⑥ 作文単元の学習が自分のうったえたいことが、うまく書けたと思いますか。



(ア) うまく書けた (71%) (イ) 書けたと思う (12%) (ウ) うまく書けなかった (17%)

授業を終えて

体験学習を振り返り、自分の問題点としてあるいは弱者の立場に立って、少しでも住みよい社会をつくろうという思いを自分の文章表現に結びつけて意欲的に取り組むことができた。学習前は文章表現にこだわっていた児童も体験学習を取り上げることによって、関心を持ち意欲的に書くことができた。特に取材活動においては図書館で調べたり、家族から聞いたり、地域で見たりとさまざまな角度から取材し、それによって意欲の喚起が高まった。しかし、構成の段階では難しいとの声が多かった。このことは、教師が型にはめようとしたためではなかったかと考える。その後こだわらないように学習過程を修正したことによって難しさから開放され自分の表現法で書くことができたのではないかと考える。

一人一人の児童が自分らしい表現で書くためには、あまり型にこだわらず伸び伸びと喜んで書かせることが大切だということが本研究を通してわかった。

〈 児 童 の 意 見 文 〉

「キーン」 車椅子の急ブレーキがかった。 車椅子に乗るのは、初めての体験である。 歩けない人や目の見えない人になっての体験学習だ。ガラスのおんなも初めて体験する人が多く、みんな緊張した。びくびくしたり、大変そうだった。とくに坂道や段差は、車椅子に乗るときは、とてもこわかった。	それに、大里村の道は、石がころころついていたり、歩道がせまいのであぶなな下。また、アイマスクをして、電信柱にぶつかったりしている人もいた。 私は、歩道を広くしたり、段差はゆるやかな坂道に直したりすると、体の不自由な人を安心して通れると思った。 以前、母と郡前に遊びに行き、たまたま車椅子に乗って買い物をしていて、人を見かけた。私は、いつも車椅子に乗って、つかれないかなど、心配していた。そのときも、便利で車椅子がなければいいのになど、思ったりした。 先生の話しや友達の話しから、体の不自由な人達が大変なことが分かった。 それで、体の不自由な人達の事を本でも調べたり、分かった事は、目が見えない人達は水やご飯を入れる時は、手でさわって、はかる事、そのため、きられたいとされているという事だ。	このように、体の不自由な人達は、道路際の不便だけでなく、いろいろな事で不自由な生活をしている。この事から、不自由な人達が便利に行動できるように考えなくては、いけないと思う。その一つとして目の不自由な人と車椅子の人達のために段差のない、車椅子の通れる道に直し、少しでも便利になるような工夫をしてほしいと考える。そうすれば、体の不自由な人達にとっても住みよい社会になると思う。	体験学習をして、 金職 英華
---	---	---	---------------------------

IV 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 児童は実際に体を使って体験したことについては、記憶力も鮮明でその過程において思考力が育つ。教材開発として体験学習をもとに、児童の興味関心を喚起することができた。また、その後の学習への意欲を持続させるのにも効果があった。
- (2) 取材活動も最初難しいとの声が聞こえたが、やっていく過程でだんだん興味を覚え、いろいろな角度から取材できた。このことから取材の場や時間を設定することと、相互交流の場をもつなどの手立てをしてあげることが効果があり、作文指導にはなくてはならないものであることがわかった。またその過程で取材能力も身についた。
- (3) 児童一人一人が意欲的に取り組むための工夫として、共通体験、相互評価、形成評価等の工夫をしたことは効果的であった。共通体験は相手の考え方を聞くことによって自分の考えと比べながら思考を深めることにつながった。これらを取り入れることによって、児童一人一人が常に課題意識をもって活動ができた。その結果児童が自主的、意欲的に文章を書くことができた。
- (4) 相互評価、自己評価することによって、一人一人の児童のよさを出し合い、認め合い、助け合う学習活動ができた。そのことにより文章表現力を高めることができた。
- (5) 児童の書いた意見文が新聞投稿や掲示、関係機関へ送られるということで具体性があり書く意欲を高めることができた。

2 今後の課題

- (1) 意見文指導過程の更なる工夫。
- (2) 意見文指導における評価の工夫。
- (3) 主張大会等の発表の場を設けることによる更なる意欲付け。
- (4) 発展学習をすることによる児童の意欲の向上。

以上のことを課題として児童の側にたった教材研究・学習指導の展開指導と評価など児童一人一人のよさや経験を生かしながら自分らしく表現することへの学習活動のあり方をさらに極めていきたい。

<主な参考文献>

飛田多喜雄編	『書く意欲・書く力を重視した 表現指導法の開発』	明治図書	1981年
本堂 寛 小林 茂 川上 繁 長谷川 貢	『新学力観に立つ 作文指導の開発』	光文書院	1994年
石田佐久馬編著	『よい国語指導の条件』	東洋館出版社	1979年
“ ”	『自己教育力を育てる国語指導』	東洋館出版社	1992年
藤原宏 監修	『思考力を高める作文指導』	教育出版	1990年
奈良国語教育実践研究会編	『課題条件法による作文指導』	明治図書	1990年